

1

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-251008

(43)Date of publication of application : 14.09.2000

(51)Int.CI.

G06K 7/016

(21)Application number : 11-050229

(71)Applicant : OLYMPUS OPTICAL CO LTD

(22)Date of filing : 26.02.1999

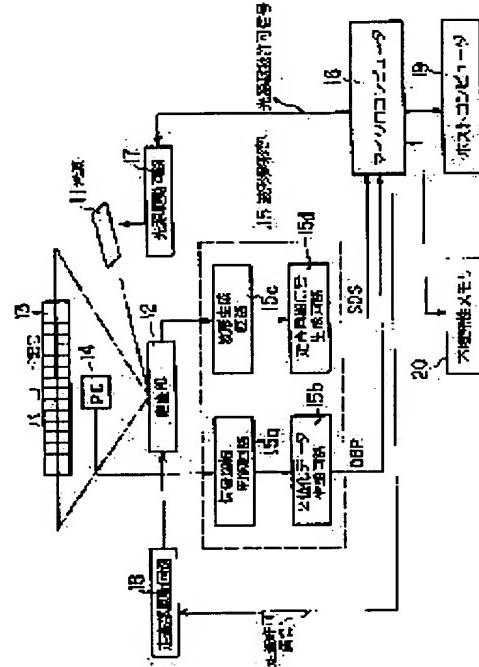
(72)Inventor : HISHINUMA SHINKICHI
TOMOYOSHI KEI
ENDO TAKAHISA
IKEDA YOSHIHIRO

(54) BAR CODE SYMBOL READER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a bar code symbol reader with which laser light can be scanned at an angle symmetric from the center of a scanning angle even when a device has an individual difference.

SOLUTION: This device is provided with a light source 11 for emitting laser light, a freely turnable scanning part 12 for scanning the laser light emitted from the light source 11 concerning a bar code symbol, a photodiode 14 for detecting symbols in the parts of different reflection factors of the bar code symbol and reading the information of the bar code symbol, a scan synchronizing signal generating circuit 15d for generating a scan synchronizing signal synchronous with the scanning operation of the scanning part 12, a non-volatile memory 20 for storing data peculiar for the device for controlling the emission time of laser light from the light source 11 and a microcomputer 16 for generating a light source drive permission signal for controlling the ON/OFF of laser light from the light source 11 on the basis of the scan synchronizing signal, the data peculiar for the device stored in the non-volatile memory 20 and a set parameter (laser scanning width).



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-251008
(P2000-251008A)

(43)公開日 平成12年9月14日(2000.9.14)

(51)Int.Cl.
G 0 6 K 7/016

識別記号

F I
G 0 6 K 7/016

テマコト(参考)
A 5 B 0 7 2

審査請求 未請求 請求項の数5 OL (全8頁)

(21)出願番号

特願平11-50229

(22)出願日

平成11年2月26日(1999.2.26)

(71)出願人 000000376

オリンパス光学工業株式会社

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号

(72)発明者 菱沼伸吉

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリ
ンパス光学工業株式会社内

(72)発明者 友吉圭

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリ
ンパス光学工業株式会社内

(74)代理人 100058479

弁理士 鈴江武彦(外4名)

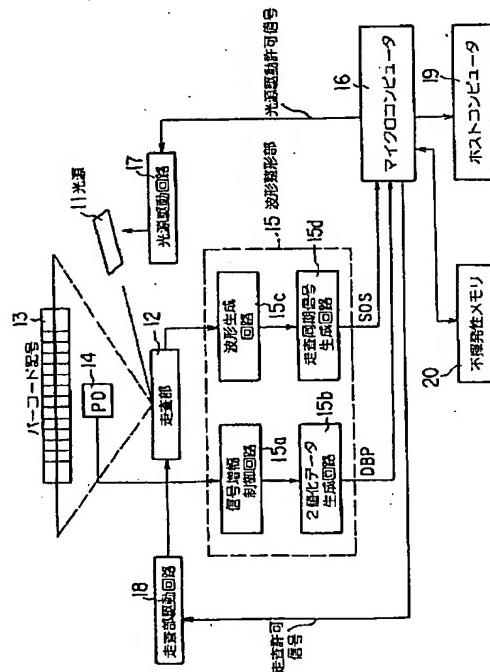
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 バーコード記号読取装置

(57)【要約】

【課題】装置に個体差があってもレーザ光を走査角の中心から対称な角度で走査することのできるバーコード記号読取装置を提供する。

【解決手段】レーザ光を出射する光源11と、光源11から出射されるレーザ光をバーコード記号に関して走査させる回動自在な走査部12と、バーコード記号の反射率の異なる部分の記号を検出してバーコード記号の情報を読み取るフォトダイオード14と、走査部12の走査動作に同期した走査同期信号を生成する走査同期信号生成回路15dと、光源11からのレーザ光の出射時間を制御するための装置固有のデータを格納するための不揮発性メモリ20と、走査同期信号と、不揮発性メモリ20に格納された装置固有のデータと、設定されたパラメータ(レーザ走査幅)に基づいて、光源11からのレーザ光のオン/オフを制御するための光源駆動許可信号を生成するマイクロコンピュータ16とを具備する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 レーザ光を出射する光源手段と、この光源手段から出射されるレーザ光をバーコード記号に関して走査させる回動自在な走査手段と、上記バーコード記号の反射率の異なる部分の記号を検出して上記バーコード記号の情報を読み取る情報読み取り手段と、前記走査手段の走査動作に同期した走査同期信号を生成する走査同期信号生成手段と、前記光源手段からのレーザ光の出射時間を制御するための装置固有のデータを格納するための格納手段と、前記走査同期信号と、前記格納手段に格納された装置固有のデータと、設定されたパラメータとに基づいて、上記光源手段からのレーザ光のオン／オフを制御するための光源駆動許可信号を生成する制御手段と、を具備することを特徴とするバーコード記号読み取り装置。

【請求項2】 前記装置固有のデータは、前記走査同期信号のエッジから走査角中心までの時間により定義される走査中心時間に関するデータであることを特徴とする請求項1記載のバーコード記号読み取り装置。

【請求項3】 前記装置固有のデータは、前記光源駆動許可信号がハイレベルとなってからレーザ光出力が所定の値となるまでの時間により定義される光源発光遅延時間に関するデータであることを特徴とする請求項1記載のバーコード記号読み取り装置。

【請求項4】 前記走査中心時間または前記光源発光遅延時間は、前記走査手段の走査方向にかかわらず同じ値を用いることを特徴とする請求項2又は3記載のバーコード記号読み取り装置。

【請求項5】 前記走査中心時間または前記光源発光遅延時間は、前記走査手段の走査方向に応じて異なる値を用いることを特徴とする請求項2又は3記載のバーコード記号読み取り装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はバーコード記号読み取り装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 一般に、反射率の異なるバーコード記号に光学要素によって所望のレーザビームスポットを照射し、そのバーコード記号からの反射率の差によって得られる光の強弱を電気信号に変換して読み取るようなバーコードスキャナが知られている。

【0003】 このようなバーコードスキャナに於いては、光源に半導体のレーザダイオード（LD）を有しており、光学要素によってレーザダイオードから出射したレーザ光を所定のレーザスポットに変換して光学路に導き、ビーム走査手段によりバーコード記号上をレーザスポットが走査可能となっている。この走査ビームは、バーコード記号が構成するキャラクタ数、記号の密度（m

i 1 数）、走査距離（ワーキングレンジ）により一義的に決定される。

【0004】 したがって、バーコード記号読み取り装置から出射されるレーザ走査幅（走査角度は一定）は、当該読み取り装置からの作動距離により変化する。すなわち、読み取り装置に近い側では走査幅は狭く、読み取り装置から遠ざかるに従って走査幅が広くなって行き、その作動距離の範囲内で読み取り要素、または読み取り装置の構成回路で決まる形態のバーコードをデコードしていた。

【0005】 このようなバーコード記号読み取り装置に於いて、作動距離が比較的遠方にあって、且つレーザ光の走査方向と同一方向に複数のバーコード記号が配列されている場合には、レーザ光が一度に複数のバーコード記号を走査することになってしまふ。そして、たとえ複数の中の特定のバーコード記号をデコードできたとしても、操作者にどのバーコード記号をデコードしたのかを告知するのは容易ではなかった。

【0006】 そこで、これらの欠点を解決するために例えば特開平8-329184号公報に記載されたような装置が開発されている。この公報には、弾性体を用いたガルバノ方式によって往復運動させる走査ミラーでレーザ光を走査し、走査ミラーの走査動作に同期した走査同期信号を発生させ、この走査同期信号の中心から対称に目的のレーザ走査幅に見合ったパルス幅の光源駆動許可信号を生成し、この光源駆動許可信号を光源駆動回路へ出力することによりレーザ光のオン／オフを制御することにより、走査ミラーの走査角よりも狭い角度でレーザ光を出射して特定のバーコード記号のみを走査可能なバーコード記号読み取り装置が記載されている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、特開平8-329184号公報に記載された装置に於いて、走査ミラーを往復運動させるための弾性体の外力の大きさに対する撓み量の特性、弾性体と走査ミラーの相対的な位置、走査ミラーの振れ位置を検出するための永久磁石とセンサコイルの相対的な位置、センサコイル出力から走査同期信号を生成する回路の電気的特性などにおいてスキャナによる個体差があるため、実際の走査角の中心と走査同期信号の中心に時間的なずれが発生する。

【0008】 また、光源駆動回路に光源駆動許可信号を入力すると同時にレーザダイオード出力が所定の出力となるのではなく、光源駆動回路の時定数やレーザダイオードの特性によって、光源駆動回路に光源駆動許可信号を入力してからレーザダイオード出力が所定の出力となるまでに図6に示すような時間的なずれ（光源発光遅延時間）が発生する。

【0009】 このような時間的なずれのために、走査同期信号の中心に対して対称な時間幅の光源駆動許可信号を出力してもスキャナによっては、図7（a）のA-A'及びB-B'で示すように、レーザ光が走査角の中

心 α に対して対称な角度を走査しなかったり、図7

(b) のA-A'及びB-B'で示すように、レーザ光の走査幅が変化してしまう現象が発生する。

【0010】本発明はこのような課題に着目してなされたものであり、その目的とするところは、装置に個体差があっても専用の制御回路や機構部品を付加することなしに、レーザ光を走査角の中心から対称な角度で走査することのできるバーコード記号読取装置を提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するために、第1の発明に係るバーコード記号読取装置は、レーザ光を出射する光源手段と、この光源手段から出射されるレーザ光をバーコード記号に関して走査させる回転自在な走査手段と、上記バーコード記号の反射率の異なる部分の記号を検出して上記バーコード記号の情報を読み取る情報読み取り手段と、前記走査手段の走査動作に同期した走査同期信号を生成する走査同期信号生成手段と、前記光源手段からのレーザ光の出射時間を制御するための装置固有のデータを格納するための格納手段と、前記走査同期信号と、前記格納手段に格納された装置固有のデータと、設定されたパラメータとに基づいて、上記光源手段からのレーザ光のオン/オフを制御するための光源駆動許可信号を生成する制御手段とを具備する。

【0012】また、第2の発明に係るバーコード記号読取装置は、第1の発明において、前記装置固有のデータは、前記走査同期信号のエッジから走査角中心までの時間により定義される走査中心時間に関するデータである。

【0013】また、第3の発明に係るバーコード記号読取装置は、第1の発明において、前記装置固有のデータは、前記光源駆動許可信号がハイレベルとなってからレーザ光出力が所定の値となるまでの時間により定義される光源発光遅延時間に関するデータである。

【0014】また、第4の発明に係るバーコード記号読取装置は、第2または第3の発明において、前記走査中心時間または前記光源発光遅延時間は、前記走査手段の走査方向にかかわらず同じ値を用いる。

【0015】また、第5の発明に係るバーコード記号読取装置は、第2または第3の発明において、前記走査中心時間または前記光源発光遅延時間は、前記走査手段の走査方向に応じて異なる値を用いる。

【0016】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施形態を詳細に説明する。

【0017】図1は、本発明の実施形態に係るバーコード記号読取装置の概略構成を示すブロック図であり、読取装置全体の制御を行なうマイクロコンピュータ16と、レーザ光を発光させる光源11と、マイクロコンピュータ16からの光源駆動許可信号を受けて光源11を

駆動する光源駆動回路17と、マイクロコンピュータ16で処理されたデコードデータを通信インターフェースを介して受信して格納するホストコンピュータ19と、光源11から出射されたレーザ光を走査しつつ品物等に貼り付けられたバーコード記号13に対して出射する走査部12と、マイクロコンピュータ16からの走査許可信号を受けて走査部12を駆動する走査部駆動回路18と、バーコード記号13からの反射率の差によって得られる光の強弱を電気信号に変換するフォトダイオード(PD)14と、波形整形部15とを具備する。

【0018】ここで、波形整形部15は、フォトダイオード14からの出力を増幅、制御する信号増幅制御回路15aと、この信号増幅制御回路15aの出力を2値化して2値化データ(以下、DBP信号と呼ぶ)を生成する2値化データ生成回路15bと、走査部12の出力を所定のレベルに増幅しつつその位相を調整する波形生成回路15cと、この波形生成回路15cで生成された信号から走査同期信号(以下、SOS信号と呼ぶ)を生成する走査同期信号生成回路15dとを具備する。

【0019】また、マイクロコンピュータ16に接続された不揮発性メモリ20には、SOS信号のエッジから走査角中心までの時間(走査中心時間)、及び光源駆動許可信号がハイレベルとなってからレーザ光出力が所定の値と成るまでの時間(光源発光遅延時間)に関するデータが予め格納されている。これら走査中心時間及び光源発光遅延時間は、装置製造時の調整工程において、テストチャートを用いてまず一方の走査(SOS信号がハイレベル)においてレーザを発光させて測定して得られる時間と、他方向の走査(SOS信号がロー・レベル)においてレーザを発光させて測定して得られる時間との2種類がある。この実施形態では走査中心時間及び光源発光遅延時間は両方向において共通な値を用いるものとする。

【0020】図2(a)はバーコード記号読取装置における情報読み取り光の走査駆動機構(光学ヘッド部分)の構成を示した図、図2(b)は同図(a)におけるI-I'線に沿った断面図、図3は光学ヘッド部分を斜めから見た構成図である。

【0021】基板21上には、光源11と、レーザ光を反射しつつ所定範囲で反復動作(振れ動作)して上記レーザ光をバーコード記号13上で走査させる走査部駆動回路18としてのミラー駆動装置22と、バーコード記号13からの反射光を読み取るフォトダイオード14等により構成される情報読み取り部23とが配置されている。

【0022】上記光源11は、図示されるように、反射光の幅領域外のミラー駆動装置22の斜め前方に配置されている。また、情報読み取り部23はミラー駆動装置22の前面で出射されるレーザ光の光軸より下方で反射光が集光されるような位置に配置されている。

【0023】上記ミラー駆動装置22は、後述する走査ミラーを磁力と弾性体を利用して振れ動作させ、レーザ光を走査させるものである。そしてその構成は、反射面が球面形状のミラーから成る走査ミラー24と、この走査ミラー24を一端に固定するU字形状の可動部25と、基板21に固定されて前記可動部25を回動可能に支持すると共に弾性体26で連結される直立支柱27と、上記可動部25の他端に取り付けられた円柱形状の永久磁石28と、この永久磁石28の中空に脱入可能に設けられた円筒状の電磁コイル29と、この電磁コイル29により発生した吸引力が無くなつたときに復元力により振れ幅の中央に戻ろうとする弾性体26とを有して構成される。

【0024】上記弾性体26は、弾性体固定部30a側の両側または片側に弾性部材から成るダンパー32により、両側から挟み込み固定される。このダンパー32は、弾性体26の固有振動数を変化させないように設ける必要があり、弾性固定部30aから軸Bまでの長さより短くする。尚、ダンパー32は、金属、プラスチック、ゴム等を薄板にして弾性力を持たせたものが望ましい。

【0025】そして、可動部25に走査ミラー24を固定している箇所には、弾性体固定部30bが設けられており、弾性体26の一辺が固定されている。また、可動部25の他端には、上記永久磁石28が交差方向に取り付けられている。可動部25の中央部には、基板21の面に垂直に延出する軸Bが設けられて、直立支柱27に嵌着されている。したがって、可動部25は、軸Bを中心図示矢印m'nで示される所定角度の範囲内で回動可能となっている。

【0026】更に、可動部25の回動中心点(B軸)と弾性体26との位置関係は、弾性体26が固定箇所を除く撓みが有効な長さの中点とB軸とが直線状に一致する。その直線を回動軸として、基板21の主面(水平面)に対して、直交するように垂直に交わるものとする。故に、可動部25は基板面に対して平行に回動する。

【0027】また、可動部25の一端の下方には、その端部から軸B下にまで達する搖れ止め部33が形成されている。この搖れ止め部33は、直立支柱27の下部に設けられた溝に嵌められており、可動部25が振れ過ぎることを防止し、また振れががたつくことを防止している。

【0028】上記電磁コイル29は、その外側に巻回されたセンサコイルと内側に巻回された駆動コイルで構成された2層コイルとなっている。このセンサコイルは、永久磁石28の脱入によって生じる磁力を検知して、脱入の状態(振れ位置)を知ることができる。電磁コイル28によって発生する振動は、弾性体26の復元力による走査幅の中間の位置に戻ろうとする力により、走査要

素で決定される固有の振動周波数で振動しつづける。

【0029】一方、上記走査ミラー24は、反射面が球面形状に形成された球面ミラー部(集光部)24bと、その中央部に設けられた平面ミラー部(出射部)24aとから成る。この出射部24aは、その面が軸Bに沿つて延出していると共に、走査ミラー24が駆動されていない初期位置で光源11からの光を、基板21のエッジ21aを含む面から垂直に出射させられるような角度を維持する。また、上記集光部24bは、基板21上で反射光の範囲Aの領域内に設けられたフォトダイオード14に集光されるように設定されている。このフォトダイオード14の受光面にはフィルタ23を有しており、集光部24bの光軸と垂直となるような角度で配されている。

【0030】このような構成により、光源11から発生されたレーザ光は、ミラー駆動装置22の走査ミラー24の平面ミラー部(出射部)24aで図示矢印m'n'方向に回動されつつ反射されて、所定角度でバーコード記号13に照射される。そして、そのバーコード記号13からの反射光は、球面ミラー部(集光部)24bで集光され、情報読み取り部23に入射される。

【0031】上記光源11は、レーザダイオード保持部11aにレーザ光の放射方向が自在に調整できるよう保持されており、出射点11bから出射部24aに至る光路は、基板21の主面と平行になっている。また、上記レーザダイオード保持部11aは金属などで形成され、放熱効果が高いものである。

【0032】この光源11は、同実施形態では、バーコード記号13からの反射光が図示範囲Aで入射するよう設定されており、上記範囲Aの領域の外側の基板21上に配置されている。

【0033】次に、上記した構成のバーコード記号読み取り装置の全体的な動作を説明する。マイクロコンピュータ16により、光源駆動回路17を介して光源11のレーザ光のオン/オフが制御される。これにより、光源11から出射されたレーザ光は、走査部12における走査ミラー24で走査されて、品物等に貼り付けられたバーコード記号13に対して出射される。

【0034】尚、この走査方法は、走査ミラー24を図示矢印m'n'方向に往復運動させるガルバノ方式による走査部駆動回路18より駆動されるが、このような走査方法に限定されるものではない。

【0035】走査部12により走査されたレーザ光は、バーコード記号13上を走査する。そして、バーコード記号13からの反射率の差によって得られる光の強弱が、情報読み取り部23のフォトダイオード14において集光され光電変換されて波形整形部15に入力される。

【0036】そして、波形整形部15内の信号増幅制御回路15aにて、フィルタ作用により光電変換時に発生しやすい変換ノイズの除去がなされ、増幅により適当な

レベルのアナログ電気信号に変換される。次いで、信号増幅制御回路15aで生成されたアナログ電気信号がマイクロコンピュータ16でデコード処理されるように、2値化データ生成回路15bにてDBP信号に変換される。

【0037】一方、走査部駆動回路18の駆動により走査部12の走査ミラー24が往復運動され、電磁コイル29から得られた起電力が、波形生成回路15cにて所定のレベルに増幅されてその位相が調整される。そして、走査同期信号生成回路15dにて、波形生成回路15cから得られた信号から、走査ミラー24の走査方向の各両端で方向が反転するタイミングと同期するSOS信号が生成される。

【0038】上記2値化データ生成回路15bから出力されたDBP信号と、走査同期信号発生回路15dから出力されたSOS信号は、マイクロコンピュータ16に入力される。そして、このマイクロコンピュータ16に於いて、デコードアルゴリズムに従ってデコードデータがチェックされ、読み取られたデコードデータをデータキャラクタ（数字、記号、文字等）にソフトウェアで変更された後、ホストコンピュータ19に一般的な通信インターフェースで転送される。

【0039】上記マイクロコンピュータ16は、読み取り装置が動作する場合は、光源駆動回路17及び走査部駆動回路18に対して動作許可信号を指示することで回路の動作を実行する。尚、光源駆動回路17及び走査部駆動回路18は、マイクロコンピュータ16からの動作許可信号に対して、独立に動作可能である。

【0040】また、マイクロコンピュータ16は、走査部12に同期して、図示されていない内部タイマにより走査ミラー24の双方向でのSOS信号の略走査時間を計測する。

【0041】図4は、SOS信号のパルス列と、光源駆動回路17に供給される光源駆動許可信号との関係をレーザ走査幅可変無しと可変有りの場合について示すタイミングチャートである。

【0042】SOS信号は、走査ミラー24の動作と同期した略50%デューティサイクルのパルス列である。この状態で、レーザ光の走査幅について何ら変化しない（デフォルト状態）場合は、光源駆動許可信号は連続にハイレベルを保持するため、光源11は連続的にレーザ光を射出し続ける。

【0043】次に、本実施形態の方法によりレーザ走査幅を狭める場合の動作について説明する。マイクロコンピュータ16は、不揮発メモリ20に格納されているSOS信号のエッジから走査角中心までの時間（走査中心時間）及び光源駆動許可信号がハイレベルとなってからレーザ光出力が所定の値と成るまでの時間（光源発光遅延時間）に関するデータを読み出し、走査中心時間及び光源発光遅延時間及びSOS信号の略走査時間、さら

に、バーコード記号に応じて設定される設定パラメータ（ここではユーザーが狭めたいレーザ走査幅）に基づいて、図5に示すような目的のレーザ走査幅に見合ったパルス幅をもつ光源駆動許可信号を生成して光源駆動回路17に対して出力する。このようなパルス幅をもつ光源駆動許可信号により光源11のレーザ光駆動のオン/オフが制御される。

【0044】なお、上記レーザ走査幅を設定する手段としては、外部よりパラメータ設定用のバーコード記号を読ませることにより行なうか、あるいは、パルス入力手段などを用いてマイクロコンピュータに直接供給することにより行なう。パルス入力手段の詳細については上記した特開平8-329184号公報に記載されている。

【0045】以下にこの光源駆動許可信号のパルス幅の生成方法について説明する。まず、SOS信号の走査時間T1と、設定パラメータで指定されたレーザ走査幅の割合を乗算して光源発光時間T5を求める。次に不揮発性メモリ20から読み出した走査中心時間T2から、光源発光時間T5の2分の1と光源発光遅延時間T4とを減算して光源駆動許可開始時間T3を求める。次に不揮発性メモリ20から読み出した光源発光遅延時間T4に光源発光時間T5を加算して、光源駆動許可信号のパルス幅としての光源駆動許可時間T6を求める。

【0046】マイクロコンピュータ16は、SOS信号がローレベルからハイレベルに変化（走査手段の走査方向が一方向から他方向に変化）したことを検出すると、図示していない内部タイマによって光源駆動許可開始時間T3が経過するのを待ち、ハイレベルの光源駆動許可信号を出力する。次に、ハイレベルの光源駆動許可信号を出力してから光源駆動許可時間T6が経過するのを待ち、その後ローレベルの光源駆動許可信号を出力する。逆に、SOS信号がハイレベルからローレベルに変化したことを検出した場合も同様な手順で光源駆動許可信号を生成する。

【0047】このようにして、光源11のレーザ出射時間は光源駆動許可信号のパルス幅によってのみ制限されるので、走査部12の走査角度よりもレーザ走査幅を狭くすることが可能となる。また光源11の走査部12の走査角度に対するレーザ出射位置はSOS信号に対する光源駆動許可信号のパルス信号の位置によってのみ制限されるので、走査中心時間T2及び光源発光遅延時間T4に所定の値を用いることによりレーザ走査線が走査部12の走査角の中心から対称な角度になるように制御することができる。

【0048】なお、上述した実施形態では、走査中心時間としてSOS信号のエッジから走査角中心までの時間を使いたが、走査中心時間としてSOS信号のエッジから走査角中心までの時間のSOS信号の走査時間に対する割合を用いても上述した実施形態と同様の効果を得ることができる。さらに動作環境の変化や経年変化等によ

って走査部12の走査時間が変化しても、レーザ走査線は走査部12の走査角の中心から対称な角度を走査することができる。

【0049】また上述した実施形態では、SOS信号がハイレベルの場合とローレベルの場合の走査中心時間及び光源発光遅延時間に共通の値を用いたが、SOS信号がローレベルの場合の走査中心時間をT_{2'}、光源発光遅延時間をT_{4'}とし、T₂、T₄、T_{2'}、T_{4'}の値を不揮発性メモリ20に格納し、SOS信号がハイレベルの場合はT₂及びT₄を用いて光源駆動許可信号を生成し、SOS信号がローレベルの場合はT_{2'}及びT_{4'}を用いて光源駆動許可信号を生成しても上述した実施形態と同様の効果を得ることが出来る。

【0050】上記した実施形態によれば、あらかじめ装置内部の不揮発性メモリ内に格納された装置固有のデータとしての走査中心時間と光源発光遅延時間とを用いてレーザ光の出射時間（レーザ光駆動のオン／オフ）を制御するようにしたので、装置に個体差があつても専用の制御回路や機構部品を付加することなしに、走査ミラーの走査角よりも狭い角度でレーザ光を出射してバーコードを走査する場合にも、レーザ走査線は常に走査ミラーの走査角の中心に対して対称な角度を走査することが可能となる。

【0051】

【発明の効果】本発明によれば、装置に個体差があつても専用の制御回路や機構部品を付加することなしに、走査要素の走査角よりも狭い角度でレーザ光を出射した場合でも、レーザ光を走査角の中心から対称な角度で走査することのできるバーコード記号読取装置を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施形態に係るバーコード記号読取装置の概略構成を示すブロック図である。

【図2】(a)はバーコード記号読取装置における情報読み取り光の走査駆動機構（光学ヘッド部分）の構成を示した図であり、(b)は(a)におけるI—I'線に沿った断面図である。

【図3】光学ヘッド部分を斜めから見た構成図である。

【図4】走査同期信号のパルス列（SOS信号）と、レーザ走査幅の可変無しと可変有りの場合における光源駆動許可信号との関係を示すタイミングチャートである。

【図5】目的のレーザ走査幅に見合ったパルス幅の光源駆動許可信号を示す図である。

【図6】光源駆動許可信号に対する光源発光の時間遅延について説明するための図である。

【図7】従来のバーコード記号読取装置としてのスキヤナの問題点を説明するための図である。

【符号の説明】

- 1 1 …光源、
- 1 2 …走査部、
- 1 3 …バーコード記号、
- 1 4 …フォトダイオード（PD）、
- 1 5 …波形整形部、
- 1 5 a …信号増幅制御回路、
- 1 5 b …2値化データ生成回路、
- 1 5 c …波形生成回路、
- 1 5 d …走査同期信号生成回路、
- 1 6 …マイクロコンピュータ、
- 1 7 …光源駆動回路、
- 1 8 …走査部駆動回路、
- 1 9 …ホストコンピュータ、
- 2 0 …不揮発性メモリ。

10

20

30

20

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

19

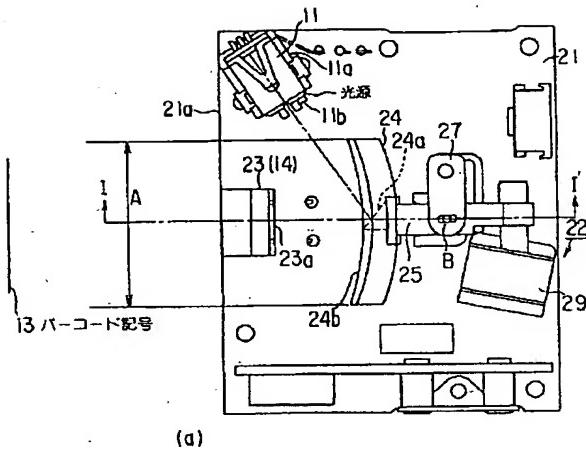
19

19

19

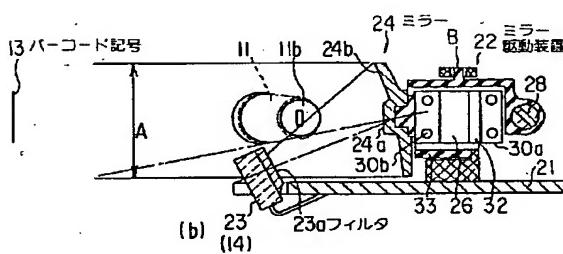
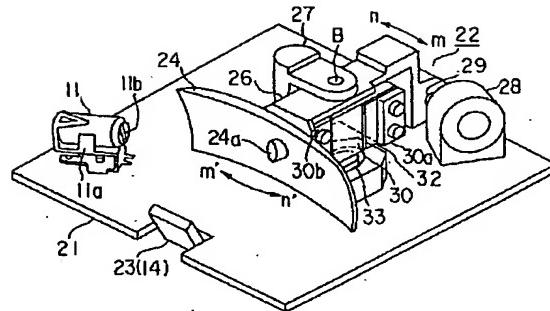
19

【図2】



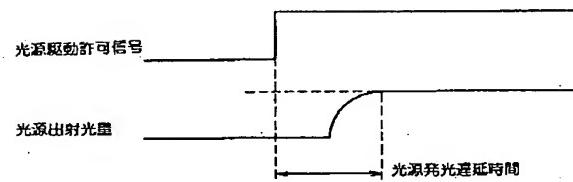
(a)

【図3】

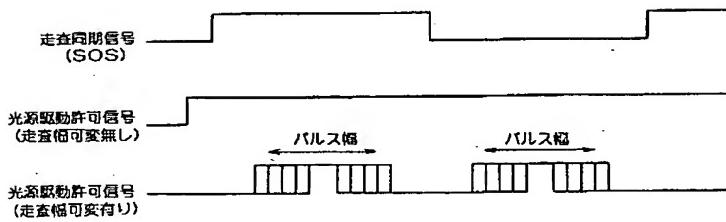


(b)

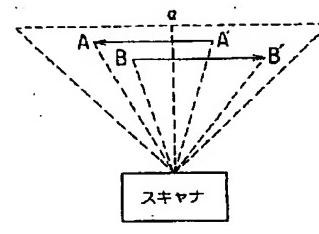
【図6】



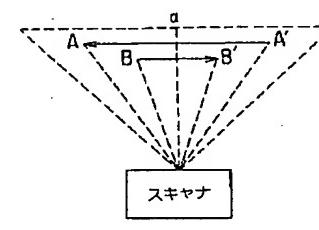
【図4】



【図7】

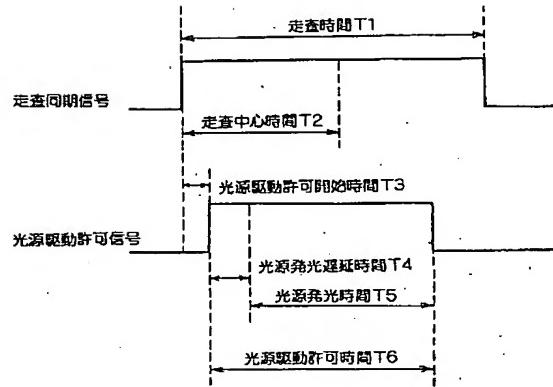


(a)



(b)

【図5】



フロントページの続き

(72) 発明者 遠藤 隆久

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリ
ンパス光学工業株式会社内

(72) 発明者 池田 義博

東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号 オリ
ンパス光学工業株式会社内
F ターム(参考) 5B072 CC24 DD02 EE05 LL16